

慈恩寺 Times

第24号

【発行】

寒河江市教育委員会 生涯学習課

【発行日】

平成 29 年 4 月 20 日 (木)

【問合せ・ご意見等】

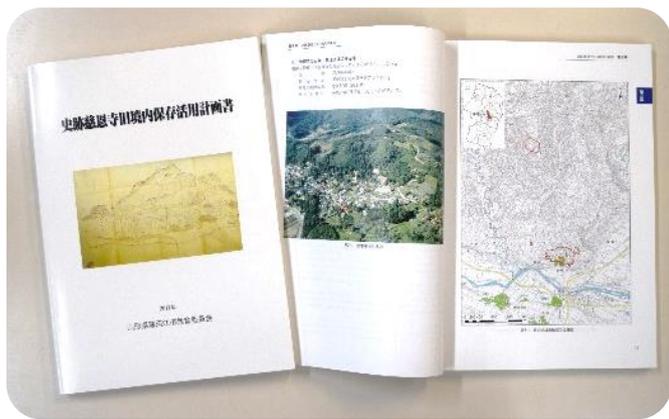
寒河江市教育委員会 生涯学習課

慈恩寺歴史文化振興室 歴史文化係

TEL:0237-86-8231

E-mail :shogaku@city.sagae.yamagata.jp

史跡慈恩寺旧境内保存活用計画を策定



平成27年度から2カ年にわたり、史跡慈恩寺旧境内保存活用計画策定委員会(伊藤清郎委員長ほか7名)で検討を重ねてきた計画が策定になり、計画書が発行されました。

江戸時代に復興したお堂や神社、院坊屋敷地のたたずまい、さらに、その背後を取り巻く城館群や境内地の北端近くにある修験の行場跡などが、かつての慈恩寺境内の姿を良好にとどめており、日本の仏教信仰のあり方を

知る上で極めて重要であるとして国史跡に指定された慈恩寺旧境内。

これら価値を持つ史跡を適切に守り、有効に活用を図る必要があることから、本計画を策定しました。計画書では、史跡慈恩寺旧境内の持つ本質的価値を示し、その価値を損なうことなく活用していくための方向性を記しています。また、史跡を守り、活かしていくために取り組む保存整備と活用整備の方針も記しています。

市では、今後、この計画に基づき、史跡慈恩寺旧境内を日本が誇る文化遺産として適切に守り、活かしていくものです。

この計画書は、市立図書館や地区公民館などで閲覧できます。今後について 保存活用計画に盛り込んだ史跡としての望ましい将来像をもとに、整備基本計画を作ります。この計画には、堂社などの修理、史跡説明看板の設置、ガイダンス施設の整備などを位置づけていく予定です。また、今年度から慈恩寺調査検討委員会を設置します。史跡の追加指定に向け、慈恩寺のかつての境内地を調査し、その内容の検討を重ねるものです。

「史跡慈恩寺旧境内保存活用計画書」目次

- 1 保存活用計画策定の沿革と目的
- 2 史跡慈恩寺旧境内の概要
- 3 寒河江の歴史と調査成果
- 4 史跡の価値と構成要素
- 5 現状と課題
- 6 大綱と基本方針
- 7 保存管理
- 8 活用
- 9 整備
- 10 運営・体制の整備
- 11 施策の実施計画の策定
- 12 経過観察と評価

達成
メーター

史跡慈恩寺旧境内
関連事業



・文部科学大臣による
国史跡指定
(官報告示)

・保存活用計画策定

・整備基本計画策定
・史跡の追加指定に
向けた調査

・整備事業開始



慈恩寺を知る

一切経会と舞童帳

慈恩寺の一切経会では舞楽が披露されますが、戦国時代から江戸時代にかけて舞楽の費用負担者を書きまとめた記録があります。「舞童帳(ぶどうちょう)」といいます。

もとは、慈恩寺の舞楽でも披露されていた稚児舞に関する負担者名簿で、江戸時代には土地に対して負担する費用が割り当てられていました。

現存する最も古い記録は永正 11 年(1514)のもので、舞楽の長い歴史が伝わってきます。



「舞童帳」永正 11 年(1514)分

慈恩寺歴史文化振興室を設置

本市教育委員会生涯学習課に、慈恩寺歴史文化振興室が設置されました。

寒河江市そして慈恩寺の歴史を守り、発信し、永く伝えていくことができるよう、より一層努めてまいります。



3月4日、市文化センターで第8回慈恩寺行事研究会が開催されました。中尊寺仏教文化研究所の菅野成寛氏をお迎えして、「法脈・伽藍・法会から探る慈恩寺開創の実像」と題し、お話ししていただきました。



第8回慈恩寺行事研究会を開催
中世慈恩寺の姿とは？

イベント案内

濫觴会

始まりを意味する「濫觴(らんじょう)」の名のとおり、慈恩寺祭礼の始まりの法会です。楽の音と読経が響き渡る中、本堂の宮殿を開き、本尊を清めます。

日時：5月4日(木・祝) 午後8時～
場所：慈恩寺本堂



慈恩寺舞楽の1つ「太平楽」

一切経会

一切経(全ての経典)を供養する慈恩寺最大の法会。宝蔵院・最上院の出仕、散華(さんげ)・唄(ばい)・梵音(ぼんのん)・錫杖(しゃくじょう)の「四箇の法要(しかのほうよう)」に続き、国指定重要無形民俗文化財の舞楽8番が、林家と慈恩寺一山衆により披露されます。舞台横の「慈恩寺稚児桜」とともにお楽しみください。

舞楽演目：燕歩(えんぷ)、三台(さんだい)、散手(さんじゅ)、太平楽(たいへいらく)、安摩(あま)、二の舞(にのまい)、陵王(りょうおう)、納曾利(なそり)
日時：5月5日(金・祝) 午後1時30分～
場所：慈恩寺本堂前庭

寒河江市ホームページ上に「慈恩寺 Times」バックナンバーを掲載中！

慈恩寺 Times

検索